

第75期
中間報告書
2020.4.1～2020.9.30

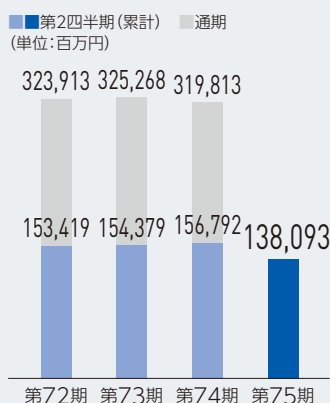
業績ハイライト

第75期第2四半期(累計)の業績

売上高

138,093 百万円

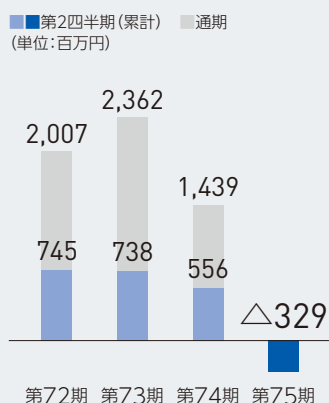
前年
同期比 11.9%減 ↓



営業利益(△損失)

△ 329 百万円

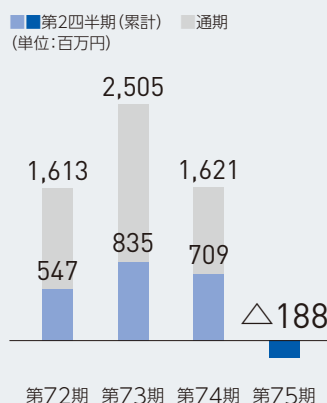
前年
同期 556 百万円



経常利益(△損失)

△ 188 百万円

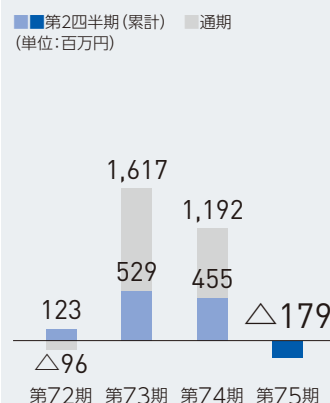
前年
同期 709 百万円



親会社株主に帰属する
四半期(当期)純利益(△純損失)

△ 179 百万円

前年
同期 455 百万円



第75期通期の業績予想

売上高

300,000 百万円

前年
同期比 6.2%減 ↓

営業利益(△損失)

△ 500 百万円

前年
同期 1,439 百万円

経常利益(△損失)

△ 350 百万円

前年
同期 1,621 百万円

親会社株主に帰属する
当期純利益(△純損失)

△ 450 百万円

前年
同期 1,192 百万円



グループの総合力を最大限に発揮し、 顧客が求める価値を提供してまいります。

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに当社第75期第2四半期連結累計期間(2020年4月1日から2020年9月30日まで)の事業および財務の概況のご報告を申し上げます。

2020年12月

代表取締役社長 **勝田 昇**

事業の経過およびその成果

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染拡大により経済活動は停滞し、設備投資、雇用・所得環境、個人消費の回復は鈍く、依然として厳しい状況が続いていますが、国内外の経済活動再開により、輸出、生産活動には持ち直しの動きがみられます。先行きについては、新型コロナウイルスの収束に兆しがみえず、不透明な状況にあります。

消費者心理は、雇用・所得環境など経済情勢の先行き不透明感から極めて厳しい状況にあります。また、消費者の購買行動は、新型コロナウイルス感染防止から人との接触を控える行動様式が続き、食料品などの日用品購買が中心になっていますが、節約志向は依然として続いています。

水産物流通業界におきましては、新型コロナウイルス感染防止に伴う行動自粛や国際的な経済活動の停滞などの影響により、内食関連需要は一部伸長するものの、外食・ホテル・インバウンド関連需要や輸出の回復は鈍く、加えて業種・業態の垣根を越えた販売競争が繰り広げられるなど、極めて厳しい経営環境下にありました。

このような環境にあつて、当社グループは、全体最適のグループ経営のもと、販売力・調達力の強化、顧客起点志向の追求、地域に対応したソリューションの提供、業務の効率化、諸経費の削減などに注力し積極的な事業活動を展開してまいりました。

当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は1,380億93百万円(前年同四半期比88.1%)となりました。損益面では、売上総利益は96億73百万円(前年同四半期比86.8%)となり、営業損失3億29百万円(前年同四半期は営業利益5億56百万円)、経常損失1億88百万円(前年同四半期は経常利益7億9百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失1億79百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益4億55百万円)となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

<水産物荷受事業>

中央卸売市場を核とする集荷販売機能をもつ水産物荷受事業は、内食関連の需要は堅調な一方、外食関連の需要が減少したことにより、売上高893億87百万円(前年同四半期比90.1%)となりましたが、売上総利益率の上昇および間接

経費全般の節減によりセグメント利益6億29百万円(前年同四半期比176.6%)となりました。

<市場外水産物卸売事業>

全国各地を網羅する販売拠点を活かした幅広い流通網をもつ市場外水産物卸売事業は、量販店関連の販売が増加したものの、外食・ホテル関連の販売が大きく減少したことにより、売上高490億45百万円(前年同四半期比86.8%)、セグメント損失8億87百万円(前年同四半期はセグメント損失1億18百万円)となりました。

<養殖事業>

九州、四国にて、ハマチ、ブリ、マグロの養殖を展開する養殖事業は、外食・輸出関連の需要が大きく減少し、供給過多による販売単価の低下から、売上高38億89百万円(前年同四半期比97.8%)、セグメント利益22百万円(前年同四半期比8.9%)となりました。

<食品加工事業>

消費地にある食品加工センターでの水産加工、量販店向けの米飯加工、カット野菜加工、飲食事業者向けの加工・調理サービスなどを行う食品加工事業は、内食関連の販売は堅調でありましたが、外食・ホテル・ブライダル関連の販売が大きく減少したことにより、売上高19億79百万円(前年同四半期比83.9%)、セグメント損失1億16百万円(前年同四半期はセグメント損失88百万円)となりました。

<物流事業>

物流センターにおいて、搬入された水産物等を量販店等の配送先別に仕分け、自社便にて配送を行う物流事業は、内食・ギフト関連の需要が堅調であったことにより、売上高9億57百万円(前年同四半期比100.4%)、セグメント損失3百万円(前年同四半期はセグメント損失27百万円)となりました。

<その他>

グループの水産物流通を補完するリース事業等その他は、売上高15億18百万円(前年同四半期比62.4%)、セグメント損失81百万円(前年同四半期はセグメント利益71百万円)となりました。

今後の見通しにつきましては、国内外の経済活動には緩やかながら持ち直しの動きがみられますが、新型コロナウイルス収束の兆しがみえず、先行きは不透明な状況にあります。

水産物流通業界におきましては、内食関連需要は堅調に推移するものの、外食・ホテル・ブライダル・インバウンド関連需要や輸出は回復するには相当の時間を要するものと思われます。また、新型コロナウイルス収束後の生活様式等の変容を見据えた業種・業態の垣根を越えた新たな販売競争が展開されるなど厳しい環境下にあると予測されます。

当社グループは、環境変化に機敏に対応するとともに、コア事業である「水産物荷受事業」および「市場外水産物卸売事業」、また、コア事業を支える「養殖事業」の事業基盤の強化を図るとともに、グループ内の加工機能、物流機能を最大限活用し、グループ総合力の発揮により顧客が求める価値を提供してまいります。そのためにグループ一体的な取組みを更に推進していくことを踏まえ、グループ各社における経営管理体制および経営基盤の強化に努めてまいります。

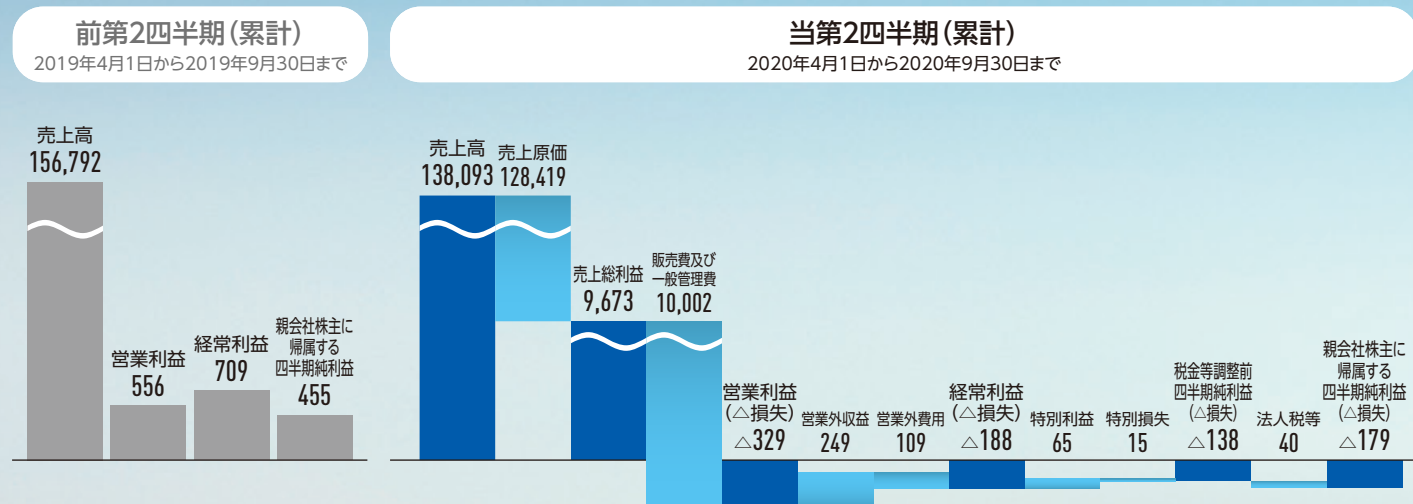
通期の業績予想につきましては、2021年3月期売上高3,000億円、営業損失5億円、経常損失3億50百万円、親会社株主に帰属する当期純損失4億50百万円を見込んでおります。

期末の配当金につきましては、1株あたり60円を予定しております。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

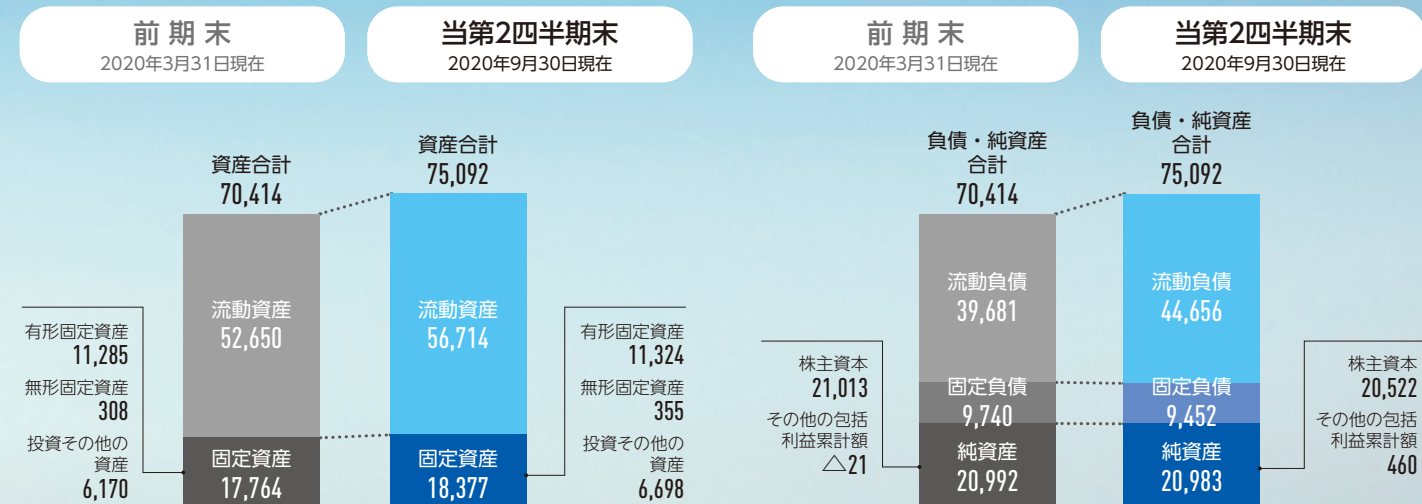
四半期連結財務諸表(要約)

連結損益計算書のポイント (単位:百万円)



(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結貸借対照表のポイント (単位:百万円)



(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

▶ 会社概要

(2020年9月30日現在)

社名	OUGホールディングス株式会社
主要な事業内容	定款に定められた事業を営むこと、ならびに定款で定められた事業を営む会社およびこれに相当する事業を営む外国会社の株式もしくは持分を保有することにより、当該会社の事業活動を支配、管理することおよびこれに関連する業務を行うことを目的としております。
設立	1946年6月12日（創業1947年10月1日）
資本金	6,495百万円
従業員数	連結1,434名 単独24名

▶ 役員の体制

(2020年9月30日現在)

取締役	代表取締役社長	勝田 昇
	取締役	中江 一夫
	取締役	橋爪 康至
	取締役	梅島 信也
	取締役	三浦 正晴（社外取締役）
	取締役	荻野 義明（社外取締役）
監査役	常勤監査役	辰 清広
	監査役	和田 徹（社外監査役）
	監査役	小竹 伸幸（社外監査役）
	監査役	石川 英機（社外監査役）
相談役	相談役	谷川 正俊
顧問	顧問	増田 安利
執行役員	執行役員	岡田 雅之
	執行役員	山田 稔
	執行役員	中村 耕

▶ 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領株主確定日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
単元株式数	100株
株主名簿管理人 特別口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
TEL 0120-094-777(通話料無料)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更等の各種お手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続き用紙のご請求につきましては、三菱UFJ信託銀行(特別口座管理機関)の上記連絡先の電話(受付時間:土日・祝祭日等を除く平日9:00~17:00)およびインターネット(24時間)でも承っております。
<https://www.tr.mufig.jp/daikou/>

上場金融商品取引所	東京証券取引所市場第一部(証券コード8041)
公告方法	電子公告の方法により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は日本経済新聞に掲載します。 公告掲載の当社ホームページアドレス https://www.oug.co.jp

免責条項
本中間報告書に掲載している将来に関する予想については、現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。
実際の実績は、様々な要因の変化により、異なる場合があることをご承知おきください。

▶ 株式の状況

(2020年9月30日現在)

発行可能株式総数	20,915,900株
発行済株式の総数	5,562,292株
株主数	12,937名

▶ 大株主（上位10名）

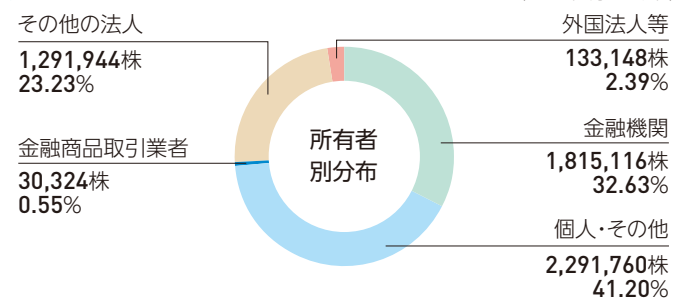
(2020年9月30日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
マルハニチロ株式会社	745	13.42
日本生命保険相互会社	265	4.77
農林中央金庫	263	4.75
株式会社りそな銀行	184	3.32
株式会社みずほ銀行	175	3.15
三菱UFJ信託銀行株式会社	151	2.74
OUGグループ従業員持株会	120	2.18
株式会社三菱UFJ銀行	115	2.07
株式会社日本カストディ銀行 (三井住友信託銀行再信託分・株式会社大丸松坂屋百貨店退職給付信託口)	115	2.07
丸大食品株式会社	115	2.07

(注)持株比率は、自己株式(12,053株)を控除して計算しております。

▶ 株式分布状況

(2020年9月30日現在)



Web Information

当社ホームページでは、当社の最新ニュースを株主・投資家の皆様に向け、発信しております。IRニュースや決算発表のページ、動画によるグループ各社の紹介、優待品を掲載した株主優待のページなど様々な情報を掲載しておりますので、ぜひご利用ください。



<https://www.oug.co.jp>

OUGホールディングス株式会社

〒553-0005 大阪市福島区野田二丁目13番5号 うおいちニッセイビル5階
TEL:06-4804-3031 FAX:06-4804-3145



見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。